

## 第3回

# 東大和市社会教育委員会議 会議録

令和元年6月18日(火)

令和元年第3回 東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和元年6月18日（火）午前10時～正午
- 2 場 所： 市役所会議棟第6会議室
- 3 出席委員： 荒川進、大月孝彦、和田孝、平松新太郎、杉本誠一、柳澤明、金山幸子、森脇千春  
（8人）  
欠席委員： 外池武嗣（1名）
- 4 事務局： 高田課長、真中係長、尾又主事（3人）
- 5 内 容：  
（1）議題
  - ① 平成31年度東大和市社会教育関係団体連合体に対する補助金の交付に伴う答申について
  - ② 研究テーマについて
  - ③ その他
- 6 公開・非公開： 非公開（東大和市立第十小学校訪問のため）
- 7 傍聴者数： なし

## <会議内容>

○荒川議長 おはようございます。ただ今より「平成31年度第3回東大和市社会教育委員会議」を開催いたします。よろしくお願ひします。最初にお手元の資料を確認させていただきます。お願ひします。

○尾又主事 おはようございます。本日机にお配りしておりますのが、次第が1枚と、それからホチキス止めしてございます資料1が3枚、社会教育関係団体の補助金の交付についてと、あと資料2が最初の3枚が荒川議長のお作りになられた資料が3つと、それから最後に1枚見学について小平の第八小学校への依頼状についての資料です。それとあとこちらのチラシですが、「第50回関東甲信越静社会教育研究大会」のお知らせとなっております。資料は以上でございます。よろしくお願ひいたします。

## 議題

### (1) 平成31年度東大和市社会教育関係団体連合体に対する補助金の交付に伴う諮問書の伝達及びその審議

○荒川議長 よろしいでしょうか、資料等揃っておりますので、これから議題に沿って進めたいと思います。(1)「平成31年度東大和市社会教育関係団体連合体に対する補助金の交付に伴う答申について」の議題といたします。前回の会から1か月経ちましたが、皆様からまた改めて何かご意見がございましたら伺いたいと思います。前回も話し合いをいたしましたけれど、その後何かございますでしょうか、お願ひいたします。本文は金額だけです。3枚目の付帯意見を付けましょうということで、このような付帯意見を付けて提出をしたいと思います。一応読んでみます。「社会教育関係団体の活動は、スポーツ文化をはじめとする市民の様々な社会教育活動の中核を担うとともに市民と行政との協働のまちづくりの一端を担っております。現在、東大和市社会教育関係連合体は、7団体で構成されておりますが、各団体を取り巻く環境は年々変化している中で、相互に連携を図り横のつながりを緊密にしていくことが、本市におけるこれからの社会教育活動のさらなる振興に大きな力になると考えます。厳しい市の財政状況であります、社会教育団体の活動が地域の教育力を高める原動力の一つであるという考え方に立ち、引き続き適切な配慮をしていただくようお願ひします。」最後の1行が中身です。時々このようにお願ひをしていたほうが良いかなということでもあります。何かあるでしょうか。よろしいですか。それではお手元の答申書のとおり、連合体からの申請額と同額を交付されるよう教育委員会に答申いたします。提出は今日学校から戻ってきて、1時に教育長室で私と大月副議長から、真如教育長にお渡ししたいと思います。よろしいでしょうか、お願ひいたします。

### (3) その他について

○荒川議長 続きまして(2)研究テーマの前に(3)その他に入ります。皆さんから何かあれば、ご自由にお願ひいたします。議題ということではありませんが、中央公民館まつり、柳澤さん中心に頑張っていたようで、様子を皆さんにお話ししていただけますか。

○柳澤委員 土曜日と日曜日、2日間、中央公民館まつりということで、ほかの公民館は毎年やっているのですが、中央公民館だけ2年に一度というか、規模が大きいせいもあるのではないかと思いますけれども、それで初日はあいにく大雨で、大変だったと思うのですが、2日目は暑いくらいの晴天で、かなり飲み物とかね、売れたのではないかと思いますけれども、初日の開会式、たくさんの方がお集まりいただきまして、市長をはじめ、教育長のご挨拶がありました。それで私の感想としては、私は文化祭のほう担当しているのですが、文化祭は30日、1か月ぐらい長くやっているから、どこがポイント

というわけではないのですね。それぞれの団体が3、4日ずつやっているのです。ところが公民館まつりというのは2日間に集中してやるから、そこに人がばあっと集まる。特にお子さんがたくさん、ご家族連れで集まって、それから色々食べ物、飲み物、それから売り物なんかがある。文化祭でも賑やかにしたいのだけど、どうしたらいいかという悩みを持っております。賑やかでああいうお祭り、年々こう私の感じでは良くなってるといふうに感じておりまして、実行委員の皆様が苦勞して、それが参加団体にも下に伝わって、それぞれみんなが工夫して良くしてということ、そういうふうに感じました。以上です。

○荒川議長 のぞいた皆さんも何か。

○金山委員 今年初めて開会式の幼稚園のステージも見せていただいて、終わった後、講談師の父の介護のお話とビデオで、1時だったかな、12時半頃までかかって、長かったのですよね。それでも私は自分の年齢が高いせいで、そういう介護の問題を切実に考えていたので本当にためになりました。嫌だ嫌だと思ってやらないで、介護やるのにも楽しくやればいいというそういうちょっとしたことだけでも、やってらっしゃるといふので、ビデオを見せてもらって、本当によかったですね。認知症になると、自分の若い時の一生懸命やっていたことばかり話すといふうね、そういう話が出てました。そのお父さんは早稲田出てらっしゃったので、早稲田の学校の時代の話を何べんもして早稲田の校歌も歌っていた。早稲田、早稲田ってああいうのを歌ったり、ビデオを見せてもらって、初めて良かったなと思って、ああいうのもいいなと思いました。高齢者の人しかいらっしゃらなかったのですが、見られた方は黙ってみんな見てらっしゃいましたね。本当に久しぶりにいいものを見せてもらったなと私は思いました。

○荒川議長 杉本さん、何かありましたか。

○杉本委員 私も初めて行ったのですが、アトラクションは幼稚園の子どもたちも可愛くて楽しいといふうか、あまり時間の余裕がなかったものですから、お昼まで本館の展示コーナーですかね、2階と3階とぐるっと回っていたのですが、それぞれのコーナーで皆さん頑張って色々なことをやっておられて、係の方が非常に積極的に入ってください、見てくださいと何か意見あったらいかがですかとか、そういう形でアプローチなさっているのは頑張ってられるなといふうに感じました。あいにくの雨だったものだからどうかなと思ったのですが、公民館ホールに結構大勢の方がお越しになってましたし、これから益々発展なさればいいなと思いました。以上です。

○荒川議長 オープニングで出てきたバレエの演技ね、可愛いですけど、私の隣にいた先生が、大和富士幼稚園の方で、隣の人と話したのを聞いていたのですが、指導者は本物のバレエ団の方だったらしいですね。今はもうかなり年で90近い。だからずっと子どもの指導で自分が踊る年ではどうもないみたいですね。だから本物なのですよ、あの子たちは、可愛いですけどね。環境週間の時も同じ子どもたち出てましたけど、確かに可愛いし、華にもなりますよね、良かったですね。今回のまつりは中央公民館だけの組織ですよ、蔵敷公民館とかは来ていますか。

○柳澤委員 館長さんたちは応援に来てましたけど。

○荒川議長 講座があるのは、その人は来ているわけではない、来てるといふうか出るわけではない。

○柳澤委員 中央公民館で活動している人たちです。

○荒川議長 結構数も多いのですよね。

○大月副議長 私も初めて出ましたけど、各それぞれの公民館の特色が出ているのでしょうか。私は南街しか知らないのですが、びっくりしたのは実行委員長の内田さんという方は、南街でレストランやっている方ですね。あの女性が実行委員長とは思わなかったですね。会ってびっくりしましたけど。今、話していた富士幼稚園の元園長さんかな、元気いいですよ。よく子どもの面倒見ているのか、気が利き

ますね。ああやってボードが邪魔だよというのも先生が言って2人で移動させたのですが、やはり主催者側が気が付かなきゃいけないけど、気が付かないでしょうね。大勢参加されてる、賑やかで、いいのかなと思いますね。2年に一回というの初めて知りましたが、それぞれ地域の特色が出ているのでしょうね。

## (2) 研究テーマについて

○荒川議長 ありがとうございます、次に(2)の研究テーマについてです。資料2をご覧ください。1枚目、2枚目、3枚目これは今までのものを整理したもので、3枚目のように一応執筆分担が決まりましたので、そこらへんの文章化をそろそろ進めなくちゃいけないかなと思って、私自身もまだろくに考えていないのですが、段々文章化していきたいと思っています。4枚目の今日の次の会がたぶん勉強会的な内容としては最後となるかと思っていますけど、7月16日火曜日、午後3時半から4時45分ぐらいまで小平市立第八小学校で、内容のような子どもみまもりネットワークとか、学校経営協議会とか、そういう活動がきちんとどこでもやっているようなこと言ってますけどね、具体的に見ないとわからないので、お話を伺いたいと思っています。講師は校長さん、あるいはその他の先生が出てくるかもしれませんが、学校側、それから学校経営協議会、コミュニティスクールのことなのでしょうね、これはね。東大和も来年あたりから、全校に広げていくと、今は五中ブロックだけのようですけど。多少そういうことに参考にはなるかなと思っていますけれども、直接的には子どもの安全・安心についてどう関わっているのか、見守りネットワークがどんな活動しているのか、そんなことを勉強してきたいと思っています。

○尾又主事 はい、小平市立第八小学校にはご連絡させていただいておまして、今の段階では3時半からということをお願いしております。次回特に議題は研究テーマ以外には無いと思いますので、皆さんがもっと早くということでしたら、それは向こうの都合がよろしければもう少し早く繰り上げることもできるかなと思いますが、研究テーマについて次回はやっていただければ大丈夫かなと思います。

○荒川議長 以上ですが、何かその他、ありましたら出掛ける前に。無いですか。ではこれから参観に出かけますので、そちらのほうへ行きましょう。以上で。

○尾又主事 関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会のお申し込みは。

○荒川議長 川越ですからね、ぜひ、都合が付けば全員参加で、7日の日帰りですよ。

○尾又 8日にご参加になりたい方いらっしゃいますでしょうか、今回近いので、もしかしたら金曜日もご参加になりたい方いらっしゃれば、出られるかなと思いますけれど。

○荒川議長 講演とシンポジウムを大体今までは午前中、食事した後そこを中心に聞いて戻ってくるとそんな形でしたけども、近いので2日の分科会も希望によっては可能かもしれませんが、一応初日だけということにしておきましょうか、はい、お願いします。

○尾又主事 ありがとうございます。それではお車は今真中係長がそちらの玄関に着けますので、ご準備お荷物お持ちになってお願いいたします。

## 【移動 東大和市立第十小学校】

○澤崎校長 今、そちらの後ろにキャラクターが貼ってあると思うのですが、今年40周年で、昨年子どもから募集をして、ファイヤー君という名前なのですが、十小は今一生懸命ということでやっているの、このキャラクターができて、担当が6年で、その子と一緒に作ったものなので、じゃあ色々なバージョン作ると動き出すよねと言って、それぞれ学校だよりとかでもこれを書いてとか、下のほう、今

隠れて、廊下にも貼っているのですが、保健の先生から歯磨きバージョン作ってとか、音楽の先生がリーダー吹いているのを作ってとか、今その中でどんどん増えているキャラクターなのです。

**○荒川議長** では、始めます。澤崎先生のご好意で十小の子どもの安心・安全についての話を伺う機会ということで、お邪魔をいたしました。よろしくどうぞお願いいたします。改めて現在の社会教育委員会会議の課題ということで説明を2、3分させていただいたあと、詳しくお話しを伺えれば嬉しいと思います。今、社会で大きな問題になっている1つが子どもの安心・安全ということで、社会教育として、要するに社会の責任として、どういうことができるのかということで、研究しているところです。対象は特に子どもと言っておりますけども、高校生からは別の課題があり、乳児も視野には入れますけども、義務教育当たりが中心かなと考えております。内容としては学校の行き帰りの交通安全ですね。あるいは不審者からの安全ということも行き帰りでは多いのですけども、新潟の事件（女児殺害線路上遺棄）以降、学校であそこまでカバーすることはあり得ないし、警察だってとてもあり得ないし、問題は社会の教育力。子どもを守る力が育たないと、ああいう事件はなくなるんだらう。では社会教育としてどうしたらいいのだから。それが1つ。それから、ブロック塀が壊れたなどという事件がありましたので、自然災害的なものから、どういうふうにして子どもを守っていくのか。3番目が、今1番大きな問題になっている虐待、元から問題になっているいじめ、そういうものも学校の中だけで発生しているわけではありませので、主に地域の住民がどうやってそれを防止していったらいいのか、社会教育的にやるのがまだまだたくさんあるのだからと、そんなことを考えながら勉強しているところです。社会だけでということも、またこれもあり得ないことなので、学校でどういうことをやっているのかということも勉強したあと、連携もあるだろうし、学校の手が回らない社会独自の問題もあるだろうから、どんな組織でどんな内容で活動していったらいいのか、そんな勉強をしている最中でございます。学校でこんなことをやっていますよということ、あるいはこんな困っていることがありますよというようなことも含めて、お話しをいただければありがたいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。

**○澤崎校長** では、私のほうで説明します。今日はありがとうございました。私も学校経営方針の1番を安心・安全にしています。その次に学力向上、生活指導もありますけれども、安心・安全というのが、学校作りの土台中の土台です。今荒川さんからお話しがありましたが、これは学校だけでやっても結局完結しないことです。プリントの2枚目から、ページが振ってありますが、生活指導主任に生活指導の取り組みの資料をいただきました。1枚目は、それを受けて、今回荒川さんから社会教育委員の皆さんがこういうことをやられていますというのをいただいていたので、交通安全、不審者・自然災害からの安全、虐待・いじめからの安全ということで、今の現状と、学校としてこういう課題があるかなということを書かせていただきました。これはあくまでも校長視点なので、もう少し生活指導主任からいけばあるのかなと思うのですけれども。今日は第二小学校でお世話になった大月さんがいらっしゃいます。私も2年前まで二小で校長をしておりましたので、地域の中で、防災訓練が行われていたりということで、地域と学校の関わりというのは、深いなと思っているところです。説明させていただいたあとに、ご意見とか、質問もいただいて、学校にも、戻したいと思っていますので、どうぞよろしく願います。ではすみません、このあと座ってお話しさせていただきます。

では、ページが振ってある1というところからご覧ください。表紙の次です。表紙は、私のほうでまとめたものですので、下に1と書いてあるところから説明をさせていただきます。まず、第十小学校の安全に対する取り組みということで、生活指導主任の佐藤のほうがまとめました。まず、学校安全教育年間指導計画というのを作成しております。当然、安全指導においても、これは各校必ず作っておりますので、1年を通してこういう安全指導をしていきますという計画があります。それに基づいて、指導

実習をしているというところで、生活、交通、災害の項目に分けて、毎月この指導計画を作成しながら、毎月のものを生かしてやっており、その中で月初めに安全指導の時間を確保しています。授業の前等に安全指導の時間、安全指導日というのを決めていて、必ず各担任が全児童に対して指導するということになります。3ページをご覧くださいければと思います。ここに今の学校安全教育年間指導計画というのが載っております。これが4月から3月までの安全に対する年間指導計画、これは第十小学校バージョンということになりますが、まず生活目標というのを決めておまして、4月は元気に挨拶しようから始まって、3月の「ありがとう」の気持ちで学校をきれいにしようまでがあります。それぞれ学校、大体似たような感じの項目がよくあるかなと思います。そして、全校朝会の時に、生活指導の担当が全校に向かって、今月の目標はこれだよ、こういうことをやっていこうねということを話しています。そして、生活と交通と災害という3つの欄を設けて、月毎に指導をしています。生活であれば、4月は登下校ですから、登下校の安全ということになるかと思います。まず生活でいくと、6月あたりちょうど今、昨日の全校朝会では遊び方を工夫しよう。これは雨の日の遊び方ということ。雨の日は外に出れないということは、室内で遊ぶ。そこには危険もいっぱいあるのです。だから、工夫をしながら楽しく遊ぼうという項目を付けたっています。あと生活の中でいくと、10月の不審電話対応の話は必ず安全指導日の朝の会でそれを取り上げましょうということをやっているところです。

続いて、地域での交通安全の話があったりします。自転車の安全な乗り方、これは交通安全教室で行っています。あとはそれぞれ総合でやるとか、5年の保健体育とかのそういう中にも安全というものがありますので、そういう授業の中で扱うこともあります。

災害におきましては、避難訓練と連動していることが多いので、後ほどまた避難訓練のお話をしますけれども、3つの柱で1年を通して安全教育を進めているということで、まずご確認ください。ページの1に戻っていただければと思います。

次、2点目が交通安全の年間指導計画。これも交通安全ということに特化したもので、指導計画を作っています。当然低中高で発達段階が違いますので、それに合わせてということと、特に3年生で先日行ったのですが、警察の方に来ていただいて安全な乗り方指導、自転車につけるステッカーももらいますので、免許証というのが発行されて、基本的にはそれ以降自転車に乗れますよということになります。現実問題はなかなかその前から保護者と一緒に乗ることがあるかと思いますが、一応そういう形を取っております。今度は4ページ、ここに交通安全の年間指導計画が載っています。これは先ほどの全体の安全計画の交通のところと連動しているわけです。安全な登下校というのが先ほどあったかと思いますが、それをより低中高に分けると、もう少し具体的に低中高で指導内容を変えているということです。4月は、全体にまたがっているような枠があるかと思いますが、歩道の中では建物側、歩道のない道では路側帯側を広がらずに歩くと。これはもう低から高までみんな同じだよということ。8月については、当然夏休みの過ごし方というのが大きく出てきますので、生活指導から話をしているところです。

また1に戻ってください。1の中の今度は3点目になります。避難訓練の実施計画をしております。様々な災害がありますので、そういうところでの計画を立てながらということ。本校の場合、3学期は3回あるのですが、それは全て予告なしでやっています。先生方にも予告なしなのです。今日やるよと決めるのは校長・副校長と主管の先生、生活指導と教務指導の4人です。今日やろうねと。先生方にも一切言っていない。いきなり放送が鳴って訓練です。そこでどう動けるか。子どもたちもそうなのですが、私たち教員も言われて動く。しかしこういうマニュアルを見て、はい並びなさいということでは実際はないわけで、いざという時に動けるかどうかという訓練をしているところです。ページの5

を開いていただけると具体的に載っているかと思いますが、これが避難訓練の実施計画になります。毎月1回必ず行っています。そこでの共通項目というのもいくつかあるのですが、まず地震に対する訓練を7回、火災に対する訓練が2回、台風接近という想定をしたものが1回、不審者対応が1回、小中の合同引き渡し訓練というのが1回という流れで1年間やっています。そして指導の重点のところの○の2つ目です。予告なしの訓練を3回実施しと書いてありますが、これが先ほどお話ししたものになります。避難訓練の行動について、各校でもそうなのですが、地震の場合は若干昨年から変えました。放送が鳴り、地震ですと言い、机の下に潜りなさい、隠れなさいと言って隠れるのですが、実際はそうではないだろうと。実際は放送聞く前にかかと揺れたらもう私たちもここに入るわけですから、最初に避難訓練と言わないと周りの方が誤解されてしまうと困るので、避難訓練は入れるのですが、避難訓練のあとに地震ですと言って、たつたつたつこういう音を鳴らします。それだけですぐ動く。まずすぐ自分の近くのところで身を隠せるところに隠れるというのを、今年度変えています。そのあと少し経ってから地震がおさまりましたと放送するという形で、実際に動けるかどうかということを想定した訓練にしています。逆に火災の場合は、聞かなければ駄目なのですよね。煙が来て感じる事もあるかもしれないのですが、全く感じないところで火災は発生していますので、どこで火災が起きているかを放送をしっかり聞き取って避難しなければ、危ないほうに避難してしまうこともありますので、そういう訓練もしているところです。さらに訓練の中では、放送機器が使えないことが十分考えられますので、そこも訓練では使います。放送が全く使えない。そういう場合には、当然肉声とか、拡声器で伝えるわけですが、そういうことに対してもやっています。ということで、避難訓練のお話しです。

では、また少し戻っていただいて、また1のところでも取り組みをお話させてください。児童への指導もあるのですが、私たちの中で安全点検というのをしています。先ほど地域の中の壁の話もありましたが、学校内も常に安全点検していかないと危険なものがありますので、低中高のブロックを周りながら危険がないかというのを見て、それが本当に釘がちょっと出ているのも危険ですよ。そういうことも入れて、もしか何か外れかかっているとか、点検したらすぐ報告を挙げて、当然用務の方が直せる物はすぐ対処します。できないものは、市の施設係に言って対処していただくということで、今年も子どもほうのキーワードとして話をしているのは、子ども目線ということを行っています。先生の高さで見ても大丈夫だよねというのは本当の大丈夫ではなくて、1年生の子の目線で考えたら目の高さにすぐ危険なものが出てくるか、そういうことは先生方にもお話しをしているところです。次に2ページ目、裏をご覧ください。安全点検は毎月10日と一応決めています。10日前後にやっています。そして速やかに対処するという事です。その次、教員の日直・月当番というのがあります。本校、これもほとんどの学校が同じようなものかと思いますが、日直がいます。その先生が校内巡視をするということで、休み時間等は先生方色々なことで、校庭で遊ぶ先生もいらっしゃいますが、決められた先生は視点を換えて休み時間回っている。それは安全の指導もあります。さらに1人では見守る範囲が、限定的になってしまうのでと書いてありますが、1人で回るといってもなかなか1人でカバーしきれませんので、月当番という先生が今月は何人かと決まっていますので、その先生方が休み時間等は校内を巡視していくということで、危ない遊びをしていることも入れて、休み時間は回っています。清掃の見回り分担というものもあるのですが、本校こちらに十小スタンダードというのが貼ってあります。今年度から十小スタンダードという5つの言葉を決めました。十小の場合は、昨年までは十小レベルファイブという1つの取り組みをしてきたのですが、まずやるべきことを簡単な言葉で決めようと。常に頭に入れておく言葉。5つの言葉、自ら挨拶・5分前集合・右側を歩く・だまってそうじ・かかとびた、これはスタンダードなのだからきちんとやろうねということです。だから多分、かかとびたなんかも、また機会があったら

見ていただくと本当に子どもたちぴたっと合わせています。あと5分前集合も、スタンダードなので、集合して当たり前、そのあとどう自分で待てるかとか、それは自分で考えなさいという話はしています。挨拶も同じです。自ら挨拶をするのですが、今度はその上を目指していくと、場面を選んできちんと相手に対して言えるとか、そういうことも言っています。その中の1つで「だまってそうじ」というのがあります。本校は無言清掃というのを徹底しています。清掃時間は、おしゃべりはせずに黙って掃除しましょう。最初のうちは指導が入るのですが、今、十小は掃除時間に曲が流れます。掃除をするような穏やかな曲なのですが、私も回っていますが、曲以外はほとんど聞こえてきません。それは徹底してきています。子どもたちが自分で静かに掃除ができるということを目指している。集中してきちんとその短い時間で掃除ができるということで、担当の先生が回わりながら、かなり子どもたちも意識してやっているかなと思っています。

以上で終わりますが、先ほどの件で補足があります。6ページをご覧ください。6ページからマニュアルがずっと示してあります。これも各校ほとんど作ってきているものですが、いざというときのマニュアルができています。地震災害が発生したときには、どういう動きをすべきなのかということです。これがA4のここにまとまっています。私これ全部把握しているかということと全部覚えているわけでは決してなくて、いざという時に、マニュアルというのはマニュアルであって、目の前に起きていることに対して、どう対処するかがマニュアルどおりではいけないことがいっぱいあるわけです。でもその元になるのは、このマニュアルなので、それは私たちは押さえておきましょう。でもいざというときに動けるようになりましょうということで、7ページが火災の発生した時の対応マニュアル。これも火災の発生の方が様々ありますので、これだけで動くことではないよという話はしています。続いて、8ページ目が今度は怪我や病気です。私たちとしては地震や火事ということも大きなマニュアルになるのですが、これが起きるということは本当に稀というか、逆に起きないことを願うばかりで、地震も小さい地震はいっぱいありますが、マニュアルを使う位の大地震になることというのは、なったときに適切に行動するということなのですが、この傷病時対応は、日常茶飯事です。正直毎日のようにあると言っても嘘ではないくらいで、毎日子どもは病気になったり、怪我をしたりします。そういうときのマニュアルをしっかりしておかないと、いざ大きな怪我を目の前にしたときに、慌ててしまって1人で対応しようとしてしまってもいけないですし、当然、養護・管理職が対応に入ります。あと今よく言われているアレルギーです。エピペン持っている子も本校に何人かいますので、保護者と確認をしながらの対応です。真ん中のほうにアレルギーに関する緊急時というので、公立昭和病院と書いてあるかと思うのですが、東大和は公立昭和病院とホットラインで繋がっています。この番号にかければ、私もこの研修会行ったのですが、公立昭和病院の先生が必ずわかる場所に誰かが付けていますと言われました。いざアレルギーという時、私たちも判断が難しいのです。その時にこの番号にかけると必ず取りますからと、この前も言われて、これで取らないことはないです。鳴った瞬間取って下さいます。まだ私自身はかけたことはないですが、取っていただいて、その場で目の前にいる子の症状、そしてすぐ指示を仰ぎます。その症状を言った段階で、エピペンを打ってくださいと言われたら、その場で当然校長なり、養護なり、すぐ打つ。その訓練もしてますので打ちます。救急車を呼ぶ時に、1秒を争いますので、こちらが慌てずにきちんと救急に言えるかということで、マニュアルに入れてあります。今年度入っても救急車を十小で呼んでいます。養護と確認しているのは、首から上、特に頭の怪我で、子どもが何か訴えて心配だと思ったら呼ぶと。今年も呼んだ上で、搬送してかなり遠い病院まで行ったのですが、最終的には異常はありません。保護者にも来ていただいて帰ったのですが、私はそれでいいと思っています。何かあった時には当然呼んで良かったのですが、何かなかったときにも呼んで良かったのだという

ことを頭に入れておかないと、大丈夫かなというところに大きなミスが起きる可能性があります。特に言っているのは、首から上で、迷ったらかける。何にもなかったらそれは良かったよねというふうに判断しましょうということです。それ以外にも、10ページ目には不審者対応マニュアル、不審者対応は、本当に難しいです。正直大阪の池田小の事件から始まって、ああいうわけのわからない人が入ったときに、こういうマニュアルではいけないと、私たちは思いますけれども、そういうことが起きた学校があるということは、常に頭になければいけないですし、この訓練も年に1回やるのですが、なかなか子どもに理解は難しい。子どもはドアを閉めてじっとしてるだけの訓練ですので、いったい今は何の訓練していたのかわからないというのもあるので、そこも私たちもしっかり押さえながらいきたいなと思っています。11ページ、12ページは、先日行ったセーフティ教室の概要を載せました。セーフティ教室、安全のための教室なのですが、低学年だとよく言う連れ去りです。中学年位でいくと万引きという自分のほうのこと。高学年はSNS、やはりドコモの方に来ていただいて、犯罪に繋がる話をさせていただきました。そういうことをやっていますということです。

では、時間もありますので、1番最初に戻ってください。今のが取り組みになります。それを受けて、私として自分としてどうかなと思いつきながら書きました。簡単に説明したあとに、質問等ご意見いただければと思っています。先ほどいただいた3つの視点がありましたので、3つの視点で書かせてもらいました。まず交通安全です。交通安全は、毎年交通安全教室を行っています。先日、十小も終わりました。これで気をつけるポイントが意識できるようにはなりました。矢印以降は、現状の課題かなと思っていますが、自分のこととして捉えていない児童が多いということは現実かと思えます。そこでも警察の方も言われますし、連れ去り。連れ去られたら大変なことなのですが、やはり他人事なのです。まだまだ自分はないだろうと思ってしまう。先ほど話した道の歩き方。あれだけ危ないよと言われているのに、広がって歩いたり、あれだけ飛び出したらぶつかるんだよと。さらにいけば自転車では、内輪差の話もさせていただきました。内輪差があるので、いくら車が来ても後ろのタイヤに巻き込まれることもある。さらに警察の方が言われていました。ただ右左見ても駄目だよと。顔見てくださいと。運転手さんと目が合う、アイコンタクト、これができていないと本当に危ないのですよと言われていながら、私が登校時に見に行くと、関係なくふわっと出て行くのがやはり多いです。これが現実だと思っています。そういう中で飛び出しの事故というのは起きるので、保護者とか地域の方の見守りとか、声掛けというのは大きいなと思っていますし、学校ではそういう教室を行っており、自分の身は自分で守るということを常に意識はさせています。1番下に「大人が、自分の姿で示す」と書いてあって、今年これもキーワードで先生方にも言っているのですが、学校としては保護者にも言いたいと思うのですが、保護者が信号無視していないですか、保護者が赤でもぱっと渡る人いないですか。自分が学校から来る間に信号はほとんどないのですが、その信号なんかでも大人の人々がぱっと見ながら赤でも渡っていく人、地域の中にいっぱいいます。十小でいけば、桜街道という駅があって、すぐその先に駐車場があるのです。そこを横切る大人の方が多すぎるなと私は思っていて、駐車場を渡るとショートカットして帰れるわけです。でもそこを渡る大人があれだけいたら、子どもたち渡っちゃうでしょうとなる。だから子どもたちには、駐車場は私有地、家と同じだから入っては絶対駄目ですと伝え、最初は少しいたのですが、今はいないと思うのです。私が見ている感じでいくと、この地域でもあそこを横切らない人のほうが少ないかもしれないです。そのほうがずっと行けてしまいますし、家の中ではないのでいいかなと。社会教育、社会という形で考えたら、交通ルールをまず大人が守る姿をみんなで見せないと、いくら学校で危ないですよ、飛び出しははいけないですよ、信号は守りましょう、アイコンタクトを取りましょうと言っても、なかなかこれは難しい。学校としても発信したいなとは思っていますが、社会教育の立場でも推進

というか、示すのが1番かなと、私は思っています。

その次に自転車実技講習をしています。これもそうなのですが、その場ではできますが、実際の生活の中ではほとんどできていませんし、私もこの前一緒にやりましたが、自分が理解していないことがあまりにも多くて、自分もできていなかったです。変な話ですが、横断歩道も自転車レーンがないところは、押して渡らなくてはいけないのです。自転車レーンがあるところとないところとあるではないですか。自転車レーンがないただの横断歩道は、降りて押して渡りましょうと言っても、自分も自転車ですーっと渡っています。そう考えるとあの実技講習の中で、そういうルールがきちんと子どもにはある。でも、実際自分がやっているのかな、あと右左、右右後ろというのも、大人が本当に自分がやっているのかな。でも子どももそこではチェックされてますからきちんとやっているのですが、実際それが実生活の中でできてないかなと思う場面はいっぱいあります。本当に危ない乗り方してる子いっぱいいますし、これは十小だけではないかと思えます。でも命に関わることがあるので、やはり保護者、地域で見守るだけではなくて、みんなでどうそれを伝え、指導していくのかが必要かなというのはあるかなと思います。あと登下校です。これも広がって歩く、飛び出し。これはもう何回も何回も言います。白線の中を歩いている子も多いのですが、厳しい目で見るとできていないなと思えます。どの学校も同じかと思うのですが、やはりここらへんで本当に事故が発生していますので、どう守っていくか。今、地域の中でスクールガードの方がついていただいたりしていますが、登校だけの見守りですので、ほんの一瞬一分なのです。と、考えると下校、放課後、学校だけではなく、保護者、地域で、どう見守っていくかというのが、広い中での色々と考えなくてはいけない部分かなと思います。あと学区の危険な場所ということで、地域安全マップというのを作るのです。公園とかでも、入りやすくも見えにくいという、いくつか視点があってやるのですが、これも地域を見ていくと、色々な公園があるが本当は安全なのかどうか。これは不審者という点が多いのですが、さっきの遊具の話ではないのですが、遊具が本当に安全なのかどうかも入れて、これも学校の中の安全点検みたいなものを、みんなですていくというのにも必要かなとは思っています。遊具等についても、危険な物があつたりするので、そういうことを考えています。

続いて2番目の不審者、自然災害からの安全では、マニュアルどおりでは対処できないことがほとんどだと思っています。状況に応じて臨機応変に対応できるようにしておかなければいけないのですが、マニュアルを使いながらこういうときはこういうことができるというのをみんなが理解することも必要かなと思います。3年生で「地域安全マップづくり」さっきお話ししました。でもこれマップづくりで終わってしまっていないかなということ。それをみんなに伝える。これもただ3年生がやるだけではなくて、地域・保護者にどう伝えていくかということも大切かと思えます。あと自然災害の対応では、これも十小の中のキーワードになる言葉の1つで、大人が示すのキーワードなのですが、「想定外を作らない」というのは言っています。想定外でしたというのは駄目なのだということです。だから「想定外は作らない」本当に最悪の時に、どう対処するかを常に考えましょうということと、避難訓練をしていますが、やはり訓練のための訓練は絶対やめよう。私一斉下校も大きく変えました。一斉下校も今までは地区ごとに集まる。場所によってはその地区班が100何十名いるのです。だからその地区班で集まって人数確認するだけで、すごい時間掛かるのです。そうこうしているうちに、1時間掛かって下校させる場面がある。かなり激しい雨が近づいていて30分以内位に下校させたほうが安全だという集団下校があるかと思う。昨年からやっているのは、1年に1回だけでは身につかないよねということで、今やっているのは最後の終業式の日に一斉下校しています。うちは昨年から変えたのですが、クラス毎に出て自分の地区の色はわかっています。その自分の色毎に出てきます。放送を入れて、ピンクコースの

人出て来てくださいますと言ったら出てきて、その担当はこちらにいる。だから人数は出すほうの担当が確認しているという形にして、あと地区以外の先生は一斉下校という段階で、危険な場所にまず先人で立っている先生もいます。最初は昨年ちょうど1回目やったのが、夏の前だったのですが、何かもうばらばらで、逆に危なすぎると思ったので、すぐ反省をして、次の2回目に2学期やった時は、校長判断で一斉下校と判断してから下校完了までの時間が短縮したということと、その歩き方を子どもたちは理解をしていて、危険な場所には担当が立っていてという一斉下校になりました。実際に使える訓練をしたいなということです。だから他のこともこれの訓練をしているけど、何の時に使えるかねと、いつも副校長と生活指導主任には言っています。これは使い道他にありませんよねと言ったら、それは訓練のための訓練だから、変更しようねという話をしているところです。

最後になります。虐待・いじめからの安全です。虐待については、実際にあります。今年度もやはり体にあざを発見して、1番発見するのはやはり担任です。あと養護も担任が来たときに、このあざはやはり心配だと。すぐ管理職に報告があります。管理職も見ます。状況聞くと、子どもは親を守りたいというのが1番で、どうしたのと言うと昨日転んだと。転んだのとは違うよねと言うと、昨日怒られた。怒られてかなり叩かれてしまったのと聞くと、いやそうでもないけどと言うのだけれど、そのあざの感じが心配なときには、子家セン、当然児相に直接通告することもあります。今色々な事件があります。担任に言っているのは、家の中で子どもが苦しんでいる、次に見つけられるのは私たち教員しかいないと。保護者がもしかしたらそういう立場であった時に、次に見つけられるのは、私たち教員だと。だから私たちもその視点がいい加減だと、子どもを救えないよという話はしていますし、もしそういう判断をした場合は、もうこれは校長判断としても、躊躇なく通告をしたいと私は思っています。それで何もない方がいいわけですし、何かあった時には対応をしていく必要があるということと、あとケース会議というのにも開きます。場面によっていろいろな関係機関の方に来ていただいて、ケース会議をすると。1番大切なのは教員一人一人の人権意識だと、私は思っているのです。そういつている教員が、子どもに対して威圧的な指導ばかりしている先生がいたら、逆に考えると教員が1番の加害者になり得ますから、私たちの言動。だから十小では威圧的な指導は絶対私は認めないと言っています。だから注意するときも大声で注意しているのは、すぐ私はぱっと飛んでいきます。その注意の仕方違うよと。子どもはうなずいてもその威圧的なことでうなずいているだけで、本質的に違うのだよと話をすることはあります。あと、いじめアンケートというのを取っていますので、これは学期毎にあります。子どもが書いてきます。そんなに多くはないですが、でもどんなに小さなことでも必ず聞き取りをして、保護者からのアンケートも取っていますので、これもやはり小さいものだと思わずに、出てきたものは丁寧にということと。あと市は9月に市全体でいじめ防止のためのシンポジウムというのを行っています。もう何回目かになります。今年も9月にありますが、小中でそういう取り組みを共有し合う形かと思えます。

最後に書きました、「大人が、自分の姿で示す」、これは私、学校も、保護者も、社会教育で今日来ていただいている皆さんも私は思うのですが、私たちが示さなかったら絶対駄目だと思っているので、安心・安全について、まず私たちが見本となる行動を取ると。それが子どもに必ず繋がるのだと思っているので、そこは教員にも話をしていますし、保護者にも学校日より等でそれを伝えていきます。だから大人の意識がまず変わらなかったら、子どもは変わらないよというところが1番ベースかなと私は思っています。私の説明等は以上です。

**○荒川議長** ありがとうございます。学校での素晴らしい指導、方法、内容をお伺いしましたけれども、社会との接点で社会教育との関わりが今後残っている部分が大きいかなという印象を持ちました。質問等ありましたら、手を挙げなくて結構ですから、自由に質問していただければと思います。どうぞ。

○森脇委員 森脇と申します。先生ありがとうございました。一斉下校のことなのですが、実際に本当に一斉下校する場合には、保護者への連絡はどうしているのですか。

○澤崎校長 基本的に一斉下校する場合は、保護者のメールがあるのですね。家庭メール。これが、今多分98%加入されていますので、一斉下校する際はこれを必ず流します。あとの2%は、こちらでそれに登録されていないことはわかっていますので、そこは基本は電話連絡、なかなかぱっと取れない時はあるかと思いますが、一応そういう形にはさせてもらっています。

○森脇委員 たとえば学童に行っている子とか、保護者が家にいない場合は。

○澤崎校長 その場合は、まず学童に送る形があります。一斉下校した後に、一番こちらも心配するのが、家に帰っても入れない子。家の前で鍵もなくて、それは絶対避けなければいけないことなので、一応そういう形には今取らせていただいています、まだまだ改良点はあるのだらうなと思いますが、一応その形にはしています。

○森脇委員 ありがとうございます。あともうひとつなのですが、火災の時に放送が流れると思うのですが、例えば学校が終わって、放課後の時間帯、例えば放課後子ども教室をやっているだとか、何か特別なことがある場合に、放送というのは流れるものなのか、どうなのか。流していらっしゃるのか。

○澤崎校長 言い方おかしいですが、学校内に子どもがいる場合、放課後子ども教室は学校とはちょっと別なものとしてやってはいますが、実際はそこで避難訓練はしたことがないのですが、当然何か起きた場合には、子どもが下校ほとんど終わっていて、放課後子ども教室の子だけがやっている時には、当然入れる、同じように対応していくかと思うので。

○森脇委員 そういうシステムになっているのですね。

○澤崎校長 当然もし起きた時には、必ず連絡はし合って、そこに居る子たちの安全確保は図ると思いますけれども。今言われたように、放課後子ども教室の方々が来てやっている時に、何かあった場合に、私たちもこちらにいますのでね。そういう連携とか、それも必要な、と今お聞きして感じました。

○森脇委員 私、一小で放課後子ども教室をやっています、その時に、地震などはすぐにわかるのですが、火災はわからないというのがありまして、結構場所も体育館であったり教室であったり、色々な場所を使っていますので、そういう時にどうやって逃げるかというのも、色々不安なところですので、それをちょっとお聞きしたいと思いました。

○澤崎校長 今、お聞きしてその通りだと思いました。放課後子ども教室の方々が、学校施設を使っている時に、いざ何かあった時にどういう経路で避難すれば良いのか。あと特別支援教室というのが今の学校にもあって、特別支援教室も、特別支援教室としての避難訓練をやっています。これは特別支援教室の巡回指導教員というのが来てやるのですが、本校の先生方、本校で言えば二小の先生が来るのですね。でもその指導中に何かがあった時に、ちゃんと経路を確認しなければいけないということで、本校はくぬぎというのですが、そういう時間帯もちゃんと年間というか、何回かやっていますので、そこは大切な部分かなと今聞いていて思いました。ありがとうございます。

○荒川議長 ほかに何かありますか。

○平松副校長 五小副校長平松です、ありがとうございました。前任が九小だったのですが、澤崎先生のお話の中に、想定外を作らないというお話があって、今のも正にそうなのだろうなど。例えば九小の場合は、学童と、放課後子ども教室と、学校の合同の避難訓練というのを年に1回やっていたのですね。どういう状況かと言いますと、高学年は授業をしていると。1年生とか早く終わったところは放課後子ども教室が始まっているし、学童にも行っていると。ただ、その想定にしないと、全体の訓練ができないので、そういう想定の際に、あえてやっているのですが、そうすると放送は入ると。それぞれどうい

う経路で避難しなければいけないかが大体わかると。ただ、ここで澤崎先生のお話に戻るのですが、職員全員出張という日もあるじゃないですか。となった時に、放送は誰が入れるのと、これは本当にイレギュラーなことになってしまうと。あるいは、夏休み、あるいは学童さんが土日に利用する場合もある。教員誰もいないという可能性もある。そこは、もう我々の想定外になってしまうのですが、ただ想定外を作らないということを意識していれば、年1回だけでもそういう避難訓練の時にこういう経路で避難したのだからと応用ができるかなと、今聞いていて思ったので、今日の十小さんの実践でも、今五小とか九小でもやっていないことがいっぱいあったので、そこは参考にして、またこういう場がより実りあるものに、そういう存在になるのかなと思って伺って、非常に参考になりました、今日は。ありがとうございました。

○澤崎校長 平松先生に言われて、本当に私たちマニュアルで動いてしまう。避難訓練も、よく担当も私もそうですが、ちゃんと実施計画を読んだ、ではやるよと。手元に持ちながら先生方も、次はこうだなとなってしまうのですけれども、実際はそんなことできないので、先ほどお話にあったように、管理職が2人いないということは基本はないのですが、基本は学校内にどちらか残ろうというのはあるのですが、何かの時にちょっと1人は遠くへ出張に行っていて、1人はどうしても市役所に行かなければいけない。そういう時に起きることがないわけではないので、そう考えたときに、そういう時にきちんと対処できるかどうか。先生方が本当に出張がいっぱい。だから本当に様々な場面を想定していないと、本当に使えるものにならない。マニュアルでしか動けないものになってしまうので、そういう避難訓練というか、そういう対応は、常に色々な場面で対応できるように。やはり放送なんかも、これは副校長先生の仕事だと思っては絶対だめだと思うのですね。全員がやれなければいけない。だからそのあたりも、訓練の中でいろいろな、本校も、普通の職員室の先生がやる時もあります。だから、その先生は不安なのですよね。でもいざなったら、もうやるしかないので、副校長先生を探している場面ではなく、入れなければいけないので。そう考えたらそういうことを、色々な場面で動けるような訓練が必要かなといつも思っています。

○荒川議長 ほかにどうぞ。

○杉本委員 これは意見なんですけど、虐待、いじめからの安全ということで、担任の先生が、子どもの異変を感じたらというところですけども、普段洋服を着ている時、冬場なんか、外見上わかりにくいということがありますよね。ですから、私のこれは考えですけども、ちょうど今からプール指導が始まりますよね。その時には皆水着を着て、脱ぐわけですよ。そういう機会が、そういう異変というのを感じる最大のチャンスと言いますか、発見する、それはなさっていると思うのですけれども、そこを上手くご利用なさればと感じました。もうやってられるとは思いますが。

○澤崎校長 今、おっしゃられたように、身体測定であるとか、あれは体重とか身長を測っているのが基本なのですけれどね。でもさっき言ったように、あざとか、見える時があります。一番私が担任に話しているのは、あざとか、不自然なあざですね。子どもはいっぱい運動しますから、あざもできるのですが、不自然なものとか、これはどうしてかというのと、やはりでも一番わかるのは表情だと私は思っています。子どもが、いつも明るい子が伏し目がちだったりした時は、友達同士の関係性でそうなっている場合もありますし、子どもの表情を読み取るのは担任、毎日接している担任が一番ですから、子どもがなんかちょっといつもと違うなと表情で感じ取ったら聞いてみる。もしかしたら何か気になることがあれば、その担任が全てではなくて、養護と確認する、管理職と確認するとかしていくことで、発見ということもあるかなと思うので、色々な場面で発見はできるかなと、いつも思っています。

○荒川議長 ほかにありましたら、どうぞ。金山さん。

○**金山委員** 私は第六小学校のスクールガードをやっているのですけれども、毎朝7時から8時半過ぎまで。ちょうど六小は歩道橋がありますから、歩道橋の前で子どもが来るのを待っている。そこで挨拶運動をしているのですけれども、そうすると、落ち葉が落ちて汚いから、校庭とか全部掃くのですね。それで7時に行って、子どもたちは早い子は7時半頃に来ますから、そういう子どもたちを見ながら、朝の挨拶をしているのですけれども。もう皆名前も全然わからないのですね。全然知らない子どもですから。100人くらいの子どもが毎朝来るのですけれども。顔は大体わかるので、子どもも私に話しかけて、今日は何があったとか朝こうして来たとか、前の晩にこういうことがあったとか、話したいことを話す場合もあるので、話さない子は全然話しませんけれどね。そういうので子どもの様子を見ていますので、今日はちょっと眠そうだなとか、調子が悪いのだなとか、どこか悪いのだなと把握しながら、おはようございますという挨拶運動をしているのですけれども。だんだん高齢になりますと、私たちもそのあとを継いでくださる人がいない。六小の場合は、公募ではなくて、私たちみたいに一緒にやっている人の誰かに自然に声をかけて、知っている人に、今度あそこで交通安全のために、子どもが来る場所、あそこは危ないから、信号も何もないので、そういうところに立ってくださいというのをお願いして、やってもらったりしているのですけれども、なかなか、そのあとを継いでくださる方がいない。そうすると、今私が考えているのは、結局誰もやらなかったら、PTA でやらなければならない。PTA のお母さん方に、毎日交代でやってもらうしかないのかななんて、ちょっと思っていますね。本当になかなか、安全、安心と言っても、見守り、声掛けとかいって、終わったあと1時頃にも子どもを見守ってくださいと入るのですけれども、なかなか地域の人ができないというのが現状ですね。今日これをいただいて、これは十小のですけれども、いただいたこれを見ながら、私たちは柳澤先生と一緒に、子どもの安全、安心というか、そういうのをやらなければならないのですけれども、これを参考にさせていただかなければしょうがない。何もないですからね。全然、それこそマニュアルもない。何もないところからやらなければならないので、これを利用させていただきたいなと思っています。

○**荒川議長** スクールガードでも、信号で旗を持って、毎朝やっているのを見えています。お年寄りの方も多いのです。充実とか、次がだんだん細くなっていくのを増やすとか、学校なりの苦労もあるかと思うのですけれども、どんなことをしているのでしょうか。

○**澤崎校長** まずスクールガードの方、それぞれの学校をやっていただいている、十小もそうですし、前任の二小もそうでしたが、その方々をお願いをされていて、なかなか次の方が。保護者は分担では立ったりしますけれども、地域を守る目として、なかなか次の方々が増えていかない。それはどこの学校も同じだと思うので、そのあたりが、どうなのでしょうね。地域としてそういう底辺が広がっていくのをお願いしますし、学校としては、今現在は保護者がいらっしゃるの、十小もそうですが、前任の二小もそうでしたが、前向きな方がいっぱいいるので。その方々が、自分のお子さんが卒業したあとに上手くつないで、地域として今度はわが子も含めた地域として、安全見守りができるように、まず学校としては、そういう方々がいてこそ安全だということをお伝えして、ぜひ皆さんもという形で伝えていくのがいいのかなといつも思っております。

○**荒川議長** PTA 活動して頑張っていた方を、子どもが卒業したら親も一緒に卒業しないように、工夫するようで。

○**金山委員** 今、若いお母さん方でそういう傾向はないですね。だから皆、PTA をずっとやっていて、青少対に入りたいと言って、青少対もやっているのですけれども、それを引き継いでいく人はいないという現状みたいですね。なんかね、大変らしいですね。

○**大月副議長** 青少対も1年間は引き継ぐのですよね。2年目以降がどうなのかなという形ですかね。

○金山委員 今皆さん、困っていらっしゃるみたいですね。

○大月副議長 今、黒板を見ていて、600名、多いですね。ぴったり600名で。6年生が83で、1年生、2年生が多いということは、増えてきていますね。

○澤崎校長 私、実は10年前までここの副校長でしたので、井上校長の時に私が副校長でいて、10年ぶりに戻ってきた校長で、その時より200人増えています。その時は400人の学校だったのです、ここは。今は600人ですので、10年間で200増えていると。だから、うわあと思いますね。施設的なこともあります、それだけ子どもがいっぱい登下校しているということにもなるので。

○大月副議長 二小の南街地区は、増えるのは分かっていたけれども、ここは200名、これを見ると、83だから、20何名か増えていますよね、1年生と6年生が。どういう要因ですか。

○澤崎校長 大きなマンションがこちらにも建っていますので。今、二小、八小、十小が600ちょっとくらい。今、高学年が少なくて。1年2年は今東大和で1番多いのですね。来年多分620、30になってしまうので。そうですね、子どもが多い分、安全見守りも大変ですね。

○大月副議長 すごいですね。見てびっくりしましたけれども。南街地区だけかと思ったら、違うのですね。

○澤崎校長 こちらは交通の便なのですからね。そこはちょっと増えていますからね。八小もまたさらに増えていくと思うので。

○杉本委員 4クラスあるのですね。

○澤崎校長 そうですね。今1年、2年が4クラス。3年以上がオール3クラス。でもこの2年生は125という数字ですので、1年2年は学級が30ですけども、35と40と変えていますので、変えているというのは定員の人数が違うので。だからこの子どもたちは、3年になっても4クラスで上がっていくクラスなのですね。普通、1、2年は4クラスで、3年から3クラスというのが意外と多いのですが、今の1年は多分120を超えてこないで、3年からは3クラスになると思います。そういうことで、本当に増えてきているので。逆に言えば、それだけ保護者も増えてきていると考えれば、その方々が地域を支えるものになっていくといいのかなと思いますけれども。

○荒川議長 スクールガードの方の依頼を、校長先生がなさいますよね。全体をどうしなさいという方針というのは、あるのですか。

○澤崎校長 市で基本的にスクールガード募集がありますので、そういう方がいらっしゃったらということで、でもあの人もやってくれと言っているみたいですよと言ってお願いする感じで、登下校については、特別こちらというよりは、腕章とかつけるものとかは持たれていますけれども。週に1回は最低回って、ご挨拶しながら、状況だけはいつも聞いていますけれども。

○荒川議長 なかなかあと継ぎが衰退気味だというのは、校長先生のご努力次第かなと思うのですが、そのあたりはどうなのですか。

○澤崎校長 そこは、微妙なのは保護者も前向きなのですが、スクールガードという立場になると、ちょっとなかなか募集には入ってこないというのはあるので。安全見守りの大切さは、先ほどのセーフティ教室とか、色々なところでお話をして、まず今現在、保護者は多分保護者の立場で見守ろうとは思ってくださっているとは思っています。でもスクールガードの方々は、本当にそれを超越して、ずっとやっていたらいいので、色々なものを発信しながら、そういう状況、地域で見守るためのこととして、伝えていく感じですね。

○荒川議長 学校は学校で頑張ってお願いをしている機会を持っているのでしょうけれども、そのほかに市全体とか、そういう大きな網掛けをしてやらないと、校長先生の独自の努力にお任せしますではやは

りだめだと思うのですよね。そこらへん課題には残りますよね。全体の人数の把握なんかも、校長先生しか知らないのではないですかね。そのほか色々な組織が、子どもの安全を、主に登下校でしようけれども、関わっていると思いますけれども、ざっとあげると、学校によって色々な組織があるから、5とか10とかあるのでしょうけれども、その相互の情報交換とか連携とか組織、大きな組織というのは、何かあるのですか。

○澤崎校長 安全で考えたら、正直、今、一番、大月さんがいらっしゃる前の第二小学校は、地域性もあるのだなと私は思うのですが、抜群ですね。地域の防災訓練であるとか、今、市で防災マニュアル、去年それを作りましたが、いざという時の避難所訓練みたいな。それはできている学校というのは、正直、東大和でも二小、二中、あそこしか僕はないだろうと思いますし、実際マニュアル止まりなのです。十小にも同じマニュアルは実はあります。でもそれで動けるかといったら、ここが避難所になれないなとまだ思っていますし、そう考えると、そこらへんの色々な流れの中で、またこちらからも発信しながら。だからやれているところもあるし、まだやれていないところもあるというのが現状かなとは思っています。

○荒川議長 学校の中での事件、事故は、これは学校の先生が責任を当然持たされるわけですがけれども、登下校のところまで先生に責任を持たされたらたまらないですよね。それはやはり地域が支えていかないといけない。そういう意味では、地域の教育力が多分問われるのだらうと思うのですけれどもね。二小、二中なんかは大月さんが頑張っているからできているようなところが、多分あるのですよ。だから、そこらへんの視点がほかのところではない、二小はできている、それは何か、何でなのかというのを明らかにしないと、校長先生が、下校したあとさらわれた、線路の上に置かれていた、なんていうところまで、とても見られるわけではないので。やはりほんの1、2分間にさらわれてしまったケースなんかを考えれば、これは誰が守るのですかと。警察だってあんなところにずっと立っているわけにはいかないのだから。やはり地域の人に関心を持つということ以外に、多分ないのでしょね。そういう点では、二小、二中地区の組織のかなり充実した様子なんか、ほかの地域に広めていくということが大事なのでしょね。自治会が基本になっているのかもしれないけれどね。

○大月副議長 たぶん私は、校長先生が3年間おられましたよね。その時に、基礎ができたと思うのですね。やはり、校長先生のお考え方によって地域の密着というのは違ってくると思うのですね。地域は関係ないよと言ったら、それで終わりですね。我々は学校に言うということができませんので。さっき実践の訓練と言われましたけれども、確かに二小、二中も防災訓練やっていますけれども、まだまだ、私はもっともっと実践的にやらなくてはいけないなと思っていますので、今回も防災訓練も、実践的な形でやろうかなと思っています。多分、それは先生が3年間おられた時に基礎を作ってくれていますのでね。だから今の現在があるのかなと感じますね。あとそれから先生、今、学校の1日の出来事を、保護者にメールで一斉配信していましたよね。あれはここでもやられているのですか。

○澤崎校長 やっています。

○大月副議長 素晴らしいことだと思いますね。その日の出来事を、先生は全部把握しておいて、それを保護者に発信するのですね。すると保護者は、今日十小の出来事が、こんなことがあったな、こんな良いことがあったなというのが、自然的に見えますのでね。それはすごく地域との、保護者との密着度が違うと思うのですね。すごく大事なことだと思いますね。

○澤崎校長 今、大月さんのほうからありましたが、私は、東大和は先ほどお話ししました副校長時代に4年間ここでお世話になって、そのあと瑞穂で5年間校長をさせていただいて、それから第二小学校で3年間、今こちらで2年目なのですが。そう考えると、東大和は、以前の副校長時代と、今の二小、

十小とやっていて、東大和の地域ですごいなといつも思っているのは、地域の方々、皆さん熱心です。十小もそうですし二小もそうですし、ほかもそう思いますし。あとは教育委員会は今日来ていただいています、私、教育委員会と学校の密接度も近い地域だと思っています。そこらへんがきちんと一体となって、安心・安全もそうなのですが、学校だけとか、地域だけ、保護者だけ、教育委員会というか市だけという考えではなくて、一緒にやっっていかなければいけないですし、先ほども南街地域の、3年間の中で、防災については、本気になって守ろうというのは、力になるのだなと思いました。だから、大月さんが中心で、あの訓練も、私は校長としてぬくぬくできないというか、当然開錠も、私たちがいないところを想定していますので、地域の方が鍵を開けるところからスタートをしていくのです。でもあの時の点検も、地域の防災の視点から教室とか回られて、ここが危険ですよねとか言われると、学校でも安全点検しているのですが。目線が変わると、こういう危険性があるのだと思いましたし、そういうことで考えると、さっき言ったように連動して、連携して安全を見ているというものにつながっていくと思うので、やはりそこらへんも、お互いに子どもの安全のために、前向きに真剣に向き合っていくというのはとても大切だなと感じています。今日もこういう機会をいただいて、私はありがたかったなと思っていますし、だから社会教育委員さんの立場で、また学校の、学校はあくまでも15校あるうちの1校の取り組みでしかないですけども、それをまたお伝えできて、連携できることが増えれば一番、この機会はプラスになるなと思っていますので。

○荒川議長 柳澤さん、何かありましたら。

○柳澤委員 びくっときたんですが、2年前、ミニ集会で、二小の地区の澤崎先生が、講師さん呼んで、確かあの時のテーマは、「大人が変われば子どもも変わる」。

○澤崎校長 はい、中島幸男先生に来ていただいて。

○柳澤委員 この一番下に、大人が自分の姿で示すと。私なんか、自転車乗ったりして、赤信号で、いやと行ってしまふことがあるのですよね。それを子どもが見ていたらと。確かに仰るとおりで。中央通りで、青梅街道と交わるこのこちら側に、なかなか信号が変わらないところがあるのですよね。普通の交差点だと、ちょっと待てば大体変わりますよね。それが、それくらいなら待てるのですが、なかなか変わらないのです。ああいうのはやはり、大人が警察とかに言わないとだめなのですね、きっと。だから、しょうがないから行ってしまふ。だから先生の言われたとおり。

○澤崎校長 自分も自己反省ばかりで。実はこの右側を歩くというのは、今年もこれを打ち出しているのです、十小は真ん中に白い線があるのですよ。昨年まで学校を回っている時、ふわっと回っていましたが、近頃絶対こちらは歩けないと思って、やはり自分が右側を歩くようになりました。階段も、ちゃんと線が、うちは以前から引いてあったので、遠回りでも右側を歩くようになった。自分がこちらを歩くと後ろめたくなってくる。でもやはりそれは、言っている以上はというのはあるので、もし言わなかったら、自分もどちらでも歩いていたのだらうなと思うので。だから自転車とか、横断歩道で、レーンない時はぱっと自分で行っていますから。でも厳密にいけばだめなのですよ。赤信号で大人が渡ったり、さっき言ったように駐車場を横切ってしまう大人の姿は見せたくないなと、それは感じます。それは子どもは見ていて、あれだけ学校で言っているけれども、大人はやっていないじゃん、となってしまふ。せっかく教えたことが一気にマイナスになってしまうものにはなるかなと感じています。

○大月副議長 子どもはよく見てると思います。学校運営やっていると、言われますよね。おじさんが、自転車を飛ばしていったと。自転車を思いっきり漕いでいるだけでも言われますのでね。信号を、赤信号で渡っていたら何を言われるかわからないのでね。よく見ていますよ。

○柳澤委員 校内には簡単に出入りできてしまうのですか。

○澤崎校長 都心のように、しっかり枠があって、高い塀があって、入口も完全にロックされていて、何か受付がなければ開かないわけでは全然ないです。正直、門も、常に鍵を閉めていたら動きが取れないので、錠はかかっていたとしても超えれば入れますし、こちらの塀だって、乗り越えようと思えば一瞬にして乗り越えられてしまうので、これはなかなか厳しいなど。都心のほうにいくと本当に高い塀で、あれは破れないな、あれを登ったら不審者とわかるだろうと。ここは本当に、難しいですよ。子どもにも言うのですけれども、不審者が、不審者らしい格好で不審者でいるわけではないよと。本当に、良い人に見える人が不審者ということは十分あるわけで、逆にそちらのほうが多いかもしれないです。だから、本当にこの指導は難しいですね。

○柳澤委員 リスクが高いですね。

○大月副議長 保護者会なんかの時は、自転車で入ったら閉めなさいと言いますが、開けばなしになっていますからね、通るのを見ると。無理ですよ、あとからあとから人が入っていけば、出入りすれば、開けばなしになってしまいますよね。

○澤崎校長 一応、それを少しでもというので、保護者は必ずここに名前付きの、うちは渡しますので、十小のマークとその保護者名を書いた名札を付けて入ってきます。だからそれが無い方は、そこで受付に書いてもらって、ここに十小というのを付けてもらうので、今日は特別に入っていて、申し訳ないですが、これは特別です。だから逆に、それを付けていない人が学校内をうろろろしているという事は、基本はない。先生方も私も付けていますので。だから逆に言えば、保護者のこれを誰かに渡してしまったら別ですが、十小と書いてある。それでも、もし不審者が適当に書いても付けられるのですが、でも一応事務室を通すということになりますので、それくらいの対策しかできないと言えないですね。

○荒川議長 そのほか、なんでも。

○大月副議長 今朝 NHK で8時の放送の中で、子どものチャイルドビジョンというのをやっていたんですね。それは、私も詳しくは見えていないのですけれども、子どもの視点で、子どもの視野というのか、見える範囲が、背の低い云々ではなくて、目の見える角度が見えないと。大人がこういうふうに行った形でしか見えないというので、私もインターネットで調べようとしたら、調べている時間がなかったのですけれども、1回そういう、手でやればわかると思うのですけれども、目のここに、こういうふうに行った、この範囲しか見えないので、車とか、不審者もそうなのですから、防ぎようがないみたいなので、そういうことを大人が体験してくださいと、そういうことをやっていましたね。チャイルドビジョンという言い方をしていました。すごく大事なことなのかなと、視野が狭いということですね。背が低いから云々ではなくて、目の見える範囲が、という言い方をしていましたね。1回詳しく調べてみますけれども。

○澤崎校長 逆に言えば、そういうことも知らないといけませんよね。

○大月副議長 そうですね。大人は見えているけれども、子どもは見えている範囲は狭いので、そういう子どもの立場に立って考えなさいという言い方をしていましたね。

○荒川議長 ありがとうございます。非常に充実した学校の指導を聞きました。一番最後あたりは、社会教育としては、なんとなく結論に近い部分が半分くらいはいつていますよね。社会の人が自分の姿で示すことなのですよ。地域の教育力ということでしょうね。それはもう社会教育でやる以外にない。多分、これが半分くらい答えですよ。ありがとうございます。帰りがてら、子どもがカードをタッチして帰る機械とか、さすまたとか、説明していただいて帰ると、そんなことでお願いできますでしょうか。ありがとうございます。

○澤崎校長 今、スクールパスと言いますか、それが入口に付きました。でも全員ではなくて、希望者なので、でもかなりの子、パーセンテージがぱっと出なくて申し訳ないのですが、登校した時にピッとやると、登校したよとわかる。出るときにもあるので。最初はちょっとドタバタしましたがけれども、付いた時は、それが上手くいかなくて、でも今はあまりそういうことを言わないので、もう馴染んできたかなという気がしています。

○荒川議長 全員触って帰りますか。忘れてしまったとか。

○澤崎校長 いや、これはあまりもう聞いていないので。大丈夫だとは思いますが。やった当初は、ありました。落ちてると、校長がチェックするとパッとやると誰のかわかるらしいんですね。そのカードが誰のかというのが。最初はやはり落ちていたりというのがあったので。近頃は私の耳には上がってきていないので、子どもたちも定着したのかなと思っています。では、荷物を置いていただいて。

## 廊下で

○澤崎校長 さすまたは、学校によってもある場所は色々違ってきます。十小の場合は、いざという時に先生方がわかっていなければいけないので、誰が取るかわからないので、こういうところに置いて、すぐ外せるようになっています。これは各階同じようになっていますので。よく校長室にある場合もあるのですが、基本は私こちらのほうが良いのかなと。いざという時に校長がいないと。近くの人がこれを使うと。

## 昇降口で

○澤崎校長 これくらいのパスモみたいなやつですね。これをポンとこれに、着いたよということらしいです。だから、親は安心ですね。今、これのトラブルは聞いていないので、定着しているのかなと思います。一応、これで学校に登校したかどうかを親のほうには、それで登録している人はチェックできます。メッセージ文を見たことはないのですが、登校したというのはすぐわかる。下校したというものもすぐわかる。逆に言えば、そこの間に時間があれば、心配になる。登校していないのかなとか。最初の頃に、子どもが遊びで抜いちゃったりするんですね。親からすごく問い合わせが来て、何だろうと言ったら抜けていたという。これが両脇にありますね。これが本校は2つ昇降口にありますので、こちらから。実は、今一番中休みの後なので、意識が飛ぶ時なのです。朝のほうが良いのですが、かなり意識してやれている。その5つだけは。